

令和4年度学校自己評価システムシート (県立岩槻北陵高等学校)

目指す学校像	地域の信頼に応え、節度と規律を重んじ、新たな自分の創造に向け、主体的に学び続ける生徒を育む学校
--------	---

重点目標	1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域への情報発信を通じ、学校への理解を深める 3 基本的な生活習慣を確立させ、規律ある安心・安全な生活を送る 4 生徒の自主的活動を通じ、社会に貢献する心豊かな人間を育てる
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	13名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (1 月 2 6 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	近年、授業に集中するようになり、成績不振者、延べ欠点数は減少し、成績優秀者が増加している。感染防止対策を徹底し、より授業に集中できる環境づくりやコロナ禍であっても学びの質の維持、学習機会の保障のため、オンライン授業等の環境を整える必要がある。 進路ガイダンスや到達度テスト、インターンシップ等とおし、進路意識は向上している。進学希望者への実力養成と就職者への働く意識の向上を図る。	(1) ICT活用も含めて、学習環境を整備・充実・発展させ、学習に集中できる環境を整える。学び直しを活用し、生徒の基礎基本の定着を徹底させ、「わかる」授業を目指す。 (2) 生徒の進路意識を段階的に向上させ、生徒一人ひとりの望ましい進路実現を目指す。	①オンライン授業等が行える体制を作る。 ②チャイム to チャイムを徹底し学習に取り組む環境を整える。 ③メディアブリの到達度テスト及び動画配信サービスを活用する。 ④朝学習、放課後・考査前勉強会を実施する。	①オンライン授業等の環境整備状況。 ②生徒アンケート「チャイム着席」の状況。(昨年度94.9%) ③到達度テストの実施状況。 ④各種勉強会への生徒の参加状況。	○「わかる」授業に向け、多くの教員がユニバーサルデザインを踏まえた授業を展開した。 ①同時双方向型オンライン授業制度設計を整え、9月下旬から実施。 ②生徒アンケート「チャイム着席」95.0%。 ③年2回「国数英」を実施。 ④朝学習を全学年で実施。 ○段階的な進路指導により進路希望実現につなげることができた。 ①進路希望クラス編成については検討を継続。 ②2学年で5日間のインターンシップを実施(満足度92.3%) ②分野別ガイダンスを実施。進路希望実現率88%(1/12現在)。 ③到達度テストを2回実施。	A
2	コロナ禍において行事や公開授業等の実施が困難な状況であるが、実現可能なところを模索し、実施している。このような状況下にあっても学校の取組や生徒の活躍の様子を、地域、近隣中学校、外部機関に効果的にアピールし、本校への理解を深めていく。HPの適宜適切な更新や一斉メールの一層の活用が課題である。	(1) HP や hokuryo.now (学校通信) 等を用いた情報発信をさらに充実させ、家庭や地域に本校の取組が伝わる体制を充実させる。 (2) 学校説明会や地域行事等で、生徒に参加を呼びかけ、生徒の活躍の場をより多く設定していく。	①見やすいHPとするとともに、学年通信や分掌通信等をHP配信し、学校の取組を発信する。 ②地域行事に積極的に参加する。 ③PTAへあいさつ運動や学校行事の参加を促す。	①HPの更新状況。学年・分掌・部活動等での更新回数。(昨年度更新回数150回) ①学校便り等の発行状況。 ②地域行事の参加回数。 ③PTAの学校行事への参加状況。	○定期的なHPの更新ができた。 ①学年・分掌のHPを98回、部活動で80回更新(1/12現在)。学校通信を2回発行、HPへ掲載。 ②小学生対象の催事に参加、指導の他、新たに小高交流を開始。 ③あいさつ運動及び文化祭にPTAが参加。 ○学校説明会で本校生徒の取組の様子をアピールできた。 ①中学生の参加は前年度比15%増(R4:181組) ②1年生が卒業中学校(17校)訪問し、本校をアピール。	A
3	基本的な生活習慣が身についている生徒は増加している。遅刻・欠席者数が改善し、交通マナー等も改善している。身だしなみ指導、遅刻減少、欠席者数減少に向けた取組を継続していく。	教職員間で生徒指導体制の共通理解を図り、学校全体として、系統的、一貫した生徒指導に取り組む。自主自立の精神の育成のため、身だしなみ・マナー・時間管理の意識を向上させる。	①下校巡回指導、昇降口での立哨指導を実施し、基本的な生活習慣を確立させる。 ②身だしなみ指導を実施する。在校中の携帯電話使用ルールを徹底・遵守させる。 ③自転車マナーアップを推進する。	①遅刻者・欠席者数の減少の割合。(遅刻指導対象者数前年比15%減) ②身だしなみ指導及び携帯電話使用に対する指導件数の状況。 ③近隣からの苦情・交通トラブル、事故件数の減少。	○基本的な生活習慣涵養のため、登校下校指導を定期的実施した。 ①遅刻者数は、前年比17%増。10月から12月の1日平均欠席者数は29.4人(昨年度26.4人) ②身だしなみ指導数前年比25.3%減(2,3学年の2学期まで) ③重大な交通事故はなかったが、近隣からの苦情は7件あり。	B
4	生徒会活動や部活動は活発になってきている。 生徒の自己有用感向上のため、様々な場面で生徒が自ら考え主体的に活動し、活躍できる場を設定する。 特別な支援が必要な生徒や課題のある生徒が増加傾向であり、各種の支援を実施する。	(1) 生徒会を中心に、生徒の主体的な活動を促す。団活動やその他の行事を通して、生徒の自己有用感を高める。 (2) 教育相談員やSC, SSW、外部機関との連携を強化する。特別支援教育、多文化共生等の充実を図る	①各行事において生徒に主体的に運営させる。 ②団活動や生活委員会等の活動を活性化させる。 ③薬物乱用防止教室など各種講演会・研修会を実施する。 ④教育相談・特別支援教育委員会を定期的に開催し、課題のある生徒への対応を適切に行う。 ⑤多文化共生推進員を有効活用する。	①文化祭等学校行事における生徒の運営状況及び満足度。 ②団活動及び委員会等の活動状況。 ③各種講演会・研修会の実施状況。 ④支援が必要な生徒や課題のある生徒への対応状況。 ④外部機関との連携状況。 ⑤日本語指導の実施状況。	○生徒会役員を中心に主体的な行事運営ができた。 ①文化祭等学校行事の満足度は84.7%(昨年度:76.0%) ②団活動で芸術コンクールを実施。 ③薬物乱用防止教室等を実施。 ○児童相談所やSSW等の外部機関との連携した対応を図った。 ④委員会を月1回開催し、生徒情報の共有を図りながら対応。 ⑤日本語指導34回実施(1月末)。	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和5年2月8日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・授業見学から、先生と生徒との関係がよく、生徒が落ち着いて授業に臨んでいた。授業アンケートから、授業の理解度・満足度が高く、学習に対する意識が向上している。引き続き「わかる」感覚を高める授業を展開して欲しい。また、習熟度別授業は、勉強が苦手な生徒を「救える」ものであり、引き続き、取り組んで欲しい。 ・プロジェクトを活用した授業が展開されているが、その投影がより見やすくなるよう暗幕を教室に設置して欲しい。</p> <p>・HPで掲載されている部活動写真や学校紹介動画などから、学校の雰囲気や生徒が一生涯命に取り組んでいる様子がわかる。引き続き、HP更新に取り組んで欲しい。特に生徒会を中心とした生徒活動の生の声を聞きたい。 ・学校説明会では、生徒会が積極的に活動に関わっており、生徒会からの学校紹介は、具体的で分かりやすく魅力的であった。 ・徳力小学校との交流事業は、良い取組であり、今後の展開に期待する。</p> <p>・遅刻、欠席については、家庭との連携が大切であると感じている。また、生活習慣アンケートでは、食事に関する項目の結果に驚きを隠せない。基本的な生活習慣の確立は、本人の自覚が不可欠であるが、家庭の協力も大切である。引き続き、粘り強く指導・支援をして欲しい。</p> <p>・学校行事は、人格を陶冶する重要な機会であり、自己有用感を育む機会である。全力を注げるような環境づくりをして欲しい。 ・他学年との交流ができる団活動は、生徒にとって有意義であり、一層、交流を深める活動に取り組んで欲しい。 ・日本語指導に関連して、広く学習機会を保障するという点で本校の存在意義がある。生徒の多様性理解の観点から引き続き、取組を進めてほしい。</p>	

